（第２号様式）

令和２年５月 22 日
県立横浜緑園高等学校長

令和２年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容 具体的な方策	取組の内容 評価の観点	校内評価 達成状況	校内評価 課題・改善方策等	学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施） 成果と課題	総合評価（　月　日実施） 改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の資質・能力を向上させるため、ICT を活用した組織的授業改善に取り組む。 ②新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、大学進学等の進路希望を実現させる学習指導を充実させる。	①教員の ICT スキルを高め、ICT を活用した授業改善を推進する。 ②生徒の実態を踏まえ、その自己実現につながる新教育課程を編成する。	①校内研修会を実施するとともに、校外の研修会にも積極的に参加して、実践力を身につける。 ②単位制普通科としての魅力を生かしながら検討を重ね、新学習指導要領の理念に応じた教育課程を編成する。	①研修会や研究授業を継続的に実施し、校外の研修にも積極的に参加したか。 ②生徒の実態を踏まえ、単位制普通科高校として効果的な授業が展開できる新教育課程を編成できたか。					
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。 ②組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。 ③学校行事や生徒会活動等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。 ④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。	①儀式的行事をはじめさまざまな場面で規範意識を高める指導を行い、その意義について生徒の意識を高める。 ②日常的に生徒情報を共有する体制を構築し、外部機関とも連携した教育相談体制を構築する。 ③学校行事や生徒会活動等に対する生徒の主体的な取組を促す指導を工夫し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。 ④部活動の加入率を高め、各部活動を活性化する支援を行い、豊かな人間性や社会性の育成につなげる。	①頭髪･服装指導や遅刻指導等の機会を生かし、生徒の規範意識を高める指導を行う。 ②生徒情報の共有を日常的に行い、外部機関と連携したケース会議等により必要な支援を行う。 ③体育祭や文化祭等の行事において、生徒が主体となった取組を行う中で、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。 ④年３回部活動への加入呼びかけを行い、各部活動の活性化を図る支援を行う。	①頭髪･服装指導や遅刻指導等により、生徒の規範意識が向上したか。 ②生徒情報の共有や外部機関との連携により、実効性のある教育相談を実施できたか。 ③各行事後のアンケートにおいて、７割以上の生徒から達成度や満足度を得られたか。 ④部活動の加入率を高め、その活性化につなげることができたか。					
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができる進路指導を展開する。	①進路学習を充実させ、生徒の希望進路実現に資する指導を行う。	①最新の進路情報を職員･生徒に周知するとともに、「総合的な学習（探究）の時間」や LHR 等で生徒の進路活動を支援する取組を行う。	①上級学校のオープンキャンパス等への参加率が１・２年次在籍者数の５割、３年次在籍者数の７割を超える等、生徒自ら積極的に進路活動を行ったか。					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（　月　日実施）	成果と課題	改善方策等
			②生徒が学力向上を目指す働きかけを行い、希望進路の実現につなげる。	②校内で実施する外部模試の受験指導や補習授業等を通じて、進路目標に向かって学力向上に努める姿勢を涵養する。	②外部模試の受験指導を効果的に行い、希望制の３年次模試において、20 人以上の生徒が受験しその結果を進路指導に役立てることができたか。					
4	地域等との協働	地域の教育力を活用し、実践教育を推進する。また、本校の教育活動を積極的に発信し、相互理解を深める中で地域に貢献する。	①地域と関わる自己啓発活動を支援し、生徒の自己肯定感を高める取組を推進する。 ②さまざまな場面を通じて学校の魅力と特色を積極的に発信し、地域に信頼される学校づくりを行う。	①学校説明会の生徒スタッフや校外ボランティア等の活動を支援するとともに、地域連携を図る場面を数多く設定し、生徒の地域社会への参画意識を醸成する。 ②学校説明会やホームページを積極的に活用し、本校の教育活動を積極的に発信できるよう校内環境を整備する。	①アンケートや報告書等において、地域との連携･協働により７割以上の生徒が自己肯定感や達成感を得ることができたか。 ②学校説明会における来場者アンケートにおいて７割以上の肯定的評価が得られたか。また、ホームページ等を活用し、効果的な情報発信ができたか。					
5	学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②三ツ境養護学校分教室の受入れを完成し、本校の教育活動との融合を図り、インクルーシブ教育をすすめる。 ③事故･不祥事を起こさない職場づくりをすすめる。 ④教職員の働き方を見直し、休暇取得率をあげる。	①清掃活動や教室･等の整理の徹底を図るとともに、防災訓練を実効性あるものとし、防災備品の管理体制を整備する。 ②分教室受入れ体制を整備し、インクルーシブ教育体制を構築する。 ③私費会計処理や行政文書の適切な管理等における事故防止を徹底する。 ④PTA 活動等の週休日の勤務について精査するとともに、業務運営について見直しをすすめ、休暇取得率の向上につなげる。	①全職員による協力体制により、清掃活動や校内各所の整備を徹底し、防災備品の管理を徹底する。 ②三ツ境養護学校との連携を密にし、双方にとって最適な教育環境を整備する。 ③会計業務における業務アシスタントの活用や、その他の業務における職員の連携により事故防止体制を構築する。 ④PTA との連絡体制を整備して役員会等の回数を精査するとともに、業務メールや ICT を活用した業務運営をすすめる。	①清掃状況、教室内整備の状況及び防災備品の管理状況についての“見える化”を整備できたか。 ②円滑な受入れを実現できたか。また、インクルーシブ教育体制の基礎を構築できたか。 ③適正な会計処理等、事故を防止する職場づくりをすすめることができたか。 ④PTA との連絡体制の整備や、業務運営における ICT の活用を通して、休暇取得率を向上させることができたか。					